

「暑中コンクリート工事の現状と課題に関する研究」報告会が開催されました。

2018年6月27日（水）13時30分から、朝日生命ホールにおいて「暑中コンクリート工事の現状と課題に関する研究」報告会が開催されました。参加人数は、234名でした。この報告会は、日本コンクリート工学会近畿支部の主催で、日本建築学会近畿支部との合同で開催したものです。報告会のプログラムを以下に示します。

プログラム	司会進行：福島和将（ポゾリスソリューションズ）
13：30～13：40 開会挨拶	熊野知司（摂南大学）
第一部 日本建築学会近畿支部 材料・施工部会	
「暑中コンクリート工事における対策マニュアル」改訂要旨の報告	
13：40～14：10 マニュアルの改訂概要	岩清水隆（竹中工務店）
14：10～14：40 室内および実機実験結果	山崎順二（浅沼組）
第二部 日本コンクリート工学会近畿支部「暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会」報告	
14：40～15：10 「土木構造物における暑中コンクリート工事の対策検討ガイドライン」について	佐々木一則（阪神高速道路）
15：10～15：20 <休憩>	
15：20～15：40 室内実験および断熱温度上昇試験結果	長岡誠一（中研コンサルタント）
15：40～16：00 実機実験結果	岩本浩二（大阪兵庫生コンクリート工業組合）
16：00～16：20 圧送実験結果	岩清水隆（前掲）
16：20～16：35 マスコンクリートの解析に関する検討	江頭正之（鹿島建設）
16：35～16：50 初期高温履歴の影響に関する検討	熊野知司（前掲）
16：50～17：00 閉会挨拶	松田好史（西日本旅客鉄道）

日本建築学会近畿支部「暑中コンクリート対策検討委員会」では、2013年「暑中コンクリート工事における対策マニュアル」を刊行しましたが、このたび、追加で実施した実験の結果を加えてマニュアルの改訂を実施しています。報告会の第一部で、日本建築学会近畿支部材料・施工部会の主査および幹事により、2018年版の改訂の要旨の説明が行われました。

一方、日本コンクリート工学会近畿支部では、2015年に土木用コンクリートの暑中工事を対象とした「暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会」が設置されました。3年間にわたって実験的および解析的検討を行い、「土木構造物における暑中コンクリート工事の対策検討ガイドライン」をとりまとめました。第二部では、このガイドラインの説明と各種の実験、解析結果の詳細な報告が行われました。特にガイドラインの説明では、発注者、施工者、製造者の相互の連携が重要であることが示されました。

打ち込み温度が35℃を超えることが懸念される条件下での建築工事および土木工事の現場実務に対して有用な資料になれば幸いです。なお、実験の実施に際しては、大阪兵庫生コンクリート工業組合およ

び大阪広域生コンクリート協同組合に多大なご協力をいただきました。ここに記して謝意を表します。

[報告会でのアンケートに対する回答はこちら](#)

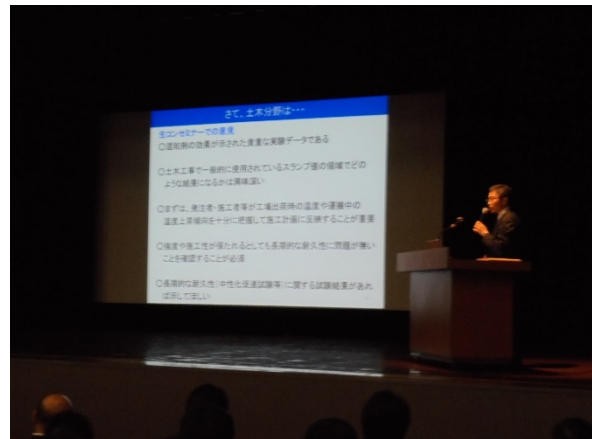


写真 報告会の様子